

平成24年度学内教育GPプログラム事業経費 成果報告書

区 分	継続型
事業名称	多次元的な学士力養成を担う総合的な学修支援のうちの24時間利用できる授業・学修支援システムの整備と定着
取組代表者名 担当者名	* 事業担当者は全員記入してください。 半田智久（代表者）、石田千晃（担当者）

1. 成果の概要

実施した事業の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、当初設定した目的・目標に照らし、3ページ以内で、できるだけ分かりやすく記述すること。必要に応じ、図表を用いても構いません。

以下、申請時の事業内容に記載された番号にそって報告する。

(1)moodle と plone の SSO(Single Sign On) 対応

学生は、moodle と plone を利用する際に、それぞれの URL にアクセスしてその都度ログインをし直さなければならない状況であったが、私の時間割 (alagin) の運用により、学生はシームレスに上記2システムにアクセスできるようになった。

<https://crdeg2.cf.ocha.ac.jp/alagin> これにより、学生は、一回のログイン認証をもって一元的にデータを閲覧・管理できるようになった。

(2)plone のインターフェイス改善

前年度に挙げられた、以下の課題を改善した。

- ① タイムアウト問題：なりすましを防ぐために、タイムアウトの時間を10分程度にしていたが、なりすましは、作成者リンクをチェックすることで防げるため、タイムアウト時間を延長した。さらに、レポート作成にはそれなりに時間がかかるため、レポート本文の一時保存機能を追加した。一時保存の場合は、plone 内の表示を「未完成」の表示（赤字）に切り替えることで、教員が完成レポートではないことを判別できるようにした。
- ② 閲覧スタンプ機能の追加：教員より、学生のレポートを「見た（確認した）」というチェック印機能の追加要望があったため「イイネボタン」を追加した。これにより、今まで必要であった「受付完了」コメントの入力が必要なくなり、クリックで代替することができるようになった。結果、利用教員の作業負荷が減少した。
- ③ ポートフォリオ機能の追加：統合認証に絡めて運用後、教員のみユーザーリンクがついていたが、学生にも付与した。（ユーザーリンクとは、投稿したデータにつく名前リンクのこと）これにより、学生は授業横断的に自分の投稿を時系列で見ることが可能になった。以下に、例として石田の時系列投稿画面を以下に掲載した。作者リンクをクリック後、「このユーザーによって作られた最新コンテンツ」（図1）に移動し、「全コンテンツ表示」リンクをクリック後、「検索結果」（図2）へ移動する。

石田千晃



You do not have an email address, so you cannot use any contact forms. Please edit your persc

#### このユーザによって作られた最新コンテンツ

2013年07月24日	Myrevo 集合写真
2013年07月24日	ながら集合写真
2013年07月24日	質疑応答
2013年07月24日	飯田さんの応答
2013年07月24日	myrevo team
2013年07月24日	他のチームからの質問
2013年07月24日	間接的情報支援の必要性
2013年07月24日	進学したいのにできない高校生へのアプローチ
2013年07月24日	考えのきっかけ
2013年07月24日	Myrevo team スタート

石田千晃 によって作られた全コンテンツ

#### 検索結果 — 1246 アイテムが検索語に

過去全投稿数  
常に更新されたこれら検索語のフィードを購読する

- Myrevo 集合写真  
作者: 石田千晃 — 最終変更 2013年07月24日 16時24分
- ながら集合写真  
作者: 石田千晃 — 最終変更 2013年07月24日 16時24分
- 質疑応答  
作者: 石田千晃 — 最終変更 2013年07月24日 17時13分
- 飯田さんの応答  
作者: 石田千晃 — 最終変更 2013年07月24日 16時23分
- myrevo team  
作者: 石田千晃 — 最終変更 2013年07月24日 16時24分

図1: 直近 10 個の投稿を表示

図2: 全投稿を表示(この場合は 1246 データ)

※このリンクの他にも、学生は「提出レポート」を一元管理できる閲覧領域を持っている。

④研究者用機能の追加: アカデミックな利用に特化した「研究者用ドキュメント」機能を追加した。この新機能の利用は今後促進していく予定である。これにより、京大式カードの電子版(自己図書館)のような活用方法が見込まれている。

### (3)高負荷対策

利用者の増加により、アクセスが増え、システム反応の低下が懸念されていたが、高負荷対策として varnish 機能を導入し、負荷分散をおこなった。現在、問題は解決されている。

### (4)アセスメント

ジェネラルな利用情報に関しては、Google Analytics を用いて分析しており、plone 利用教員には、各学期終了後に「利用カルテ」として提出している。これにより、いつ何時に学生が plone を利用しているのか、どのようなデバイスからアクセスしているのか、1回の利用に付きどのくらいの時間利用しているのかが一目瞭然となった。これは、時間外学修・学習の実態を把握する一助にもなっている(授業日以外のアクセスを計算)。また、定期的に plone を利用する学生に対して匿名のアンケートを行っており、その結果を運用・開発に活かすようにしている。

### (5)利用者サポート

①FD 講習会、個別サポート: 教員向け、職員向けの FD セミナーを年に複数回開催している。本年度は、7月16日に実施した。今後、7月31日に実施を予定しており、9月以降は、月に1度のペースで開催を予定している。FD 講習会の他にも、個別サポートを行っている。日常的なサポート業務は、多岐にわたり、担当者の石田のみでは手がまわらないため、AAと分担して行っている状況である。

②マニュアル制作: マニュアルサイトを作成し、2週間に1度のペースで更新している。マニュアルには、PC 閲覧用の PDF ファイルと、iPad 用の ibooks ファイル、ビデオマニュアル

ルの3種類が用意されている。今後、iphoneに対応したePub形式の掲載も予定している。  
掲載サイト：<https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/ochaPlone>  
現時点で、マニュアルは約半分を掲載している状態であるため、本年度の残りで後半部分を完成させ、順次掲載していく予定である。

#### (6) プロジェクト支援

本年度から、部署を横断したプロジェクト支援型の活動にも Plone を活用したいという要望があり、以下の部署の活動をサポートしている。

- ・ 総合学修支援センター（Learning Support Center 情報の掲載：統合認証ログイン後閲覧可）
- ・ 広報チーム（広報アテンダント：登録学生約40名）
- ・ リーダーシップ養成教育研究センター（イベント参加登録のサポート）
- ・ 附属中学校（2013年8月以降のサポートを予定）

以上の業務のほぼすべてに、本学内教育GPで採用したAAが携わっている状況である。特に、(5)利用者サポートの②マニュアル制作で作られたコンテンツのほとんどは、本プロジェクトで採用されたAAにより作成されたものである。また、ploneは、alaginと連携しているため、申込制となっている。申込後、初期設定を行っているのも、ploneの操作を熟知したAAである。

## 2. 今後の取組み継続に係る実施体制及び資金確保の状況について

本経費は、学外の競争的資金等によるプロジェクトで、プロジェクト実施期間終了後も引き続き取組みを継続するための体制を整備するために配分されたものです。本経費の支援期間終了後の実施体制及び資金確保の状況について記述してください。

継続資金は現時点で未取得である。しかし、本プロジェクト期間終了後も、ploneによる学修支援、プロジェクト支援を、低コストで持続可能な活動にしていくためには、引き続きかかる業務に対するAAの採用が必要である。また、Active Learning等、現在、日本の大学で導入されつつある反転型の授業実践に、オンラインの学習・学修空間が必須であることが盛んに議論されているが、その実験空間の1つとしてploneを活用し、様々な新しい取組を試行錯誤していく必要性があり、複数人体制での業務遂行がのぞましいと考える。